

在宅で 生きる

vol. **18**

12月号

2015.12.1.

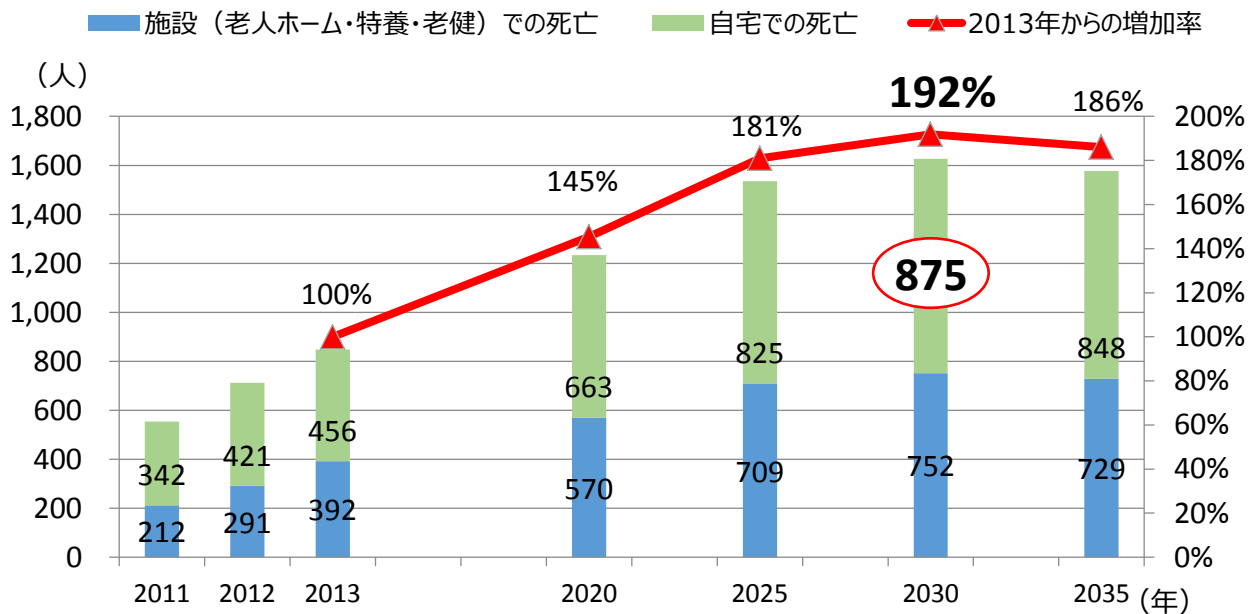
練馬区 地域医療担当部
地域医療課
医療連携担当係
TEL:03-5984-4673

特集 —数字で見る練馬区の在宅療養—

現在、どれくらいの患者さんが在宅療養生活を選択し、どのような医療的サポートを受けながら、看取りまで過ごされているのか。今回は、実績値やアンケート結果などの「数字」から見える、練馬区における在宅療養の現状についてご紹介します。

将来的な自宅（施設含む）看取り数の推計

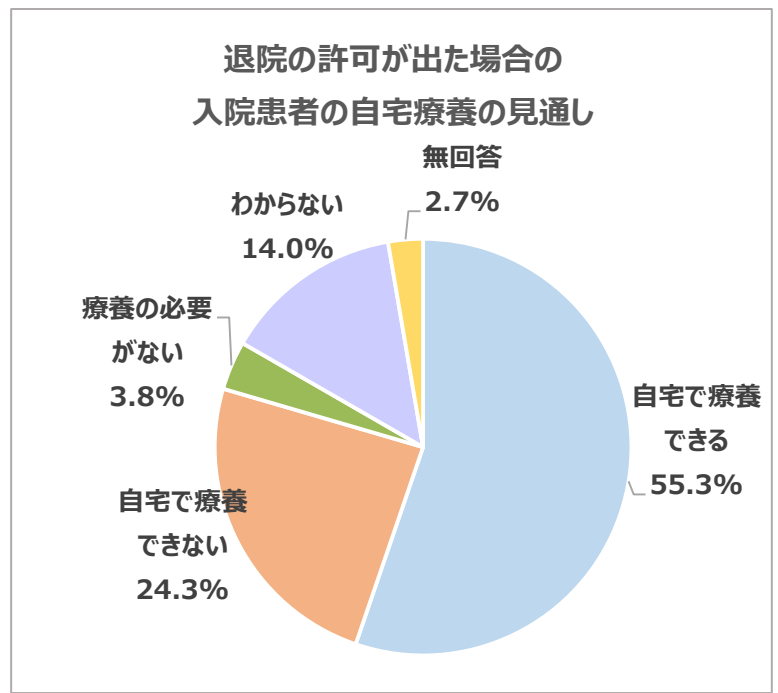
※ 練馬区死亡小票調査（2014）



まず、練馬区の将来的な在宅看取り数の需要量の推計を見てみましょう。高齢者の増加に伴い、2030年には、2013年現在のおよそ2倍もの在宅看取り需要が発生すると予想されています。

では、実際に入院している患者さんが、退院の許可が出た場合、在宅療養生活へ移行することについてどのように考えているのでしょうか。

右図は、厚生労働省が実施した「平成26年度受療行動調査」の結果です。退院の許可が出た場合の在宅療養の見通しとして、「自宅で療養できる」と判断した患者さんは全体の55.3%に上ります。また、本調査では、「自宅で療養できない」と回答した方の自宅での療養に必要な条件として「入浴や食事などの介護が受けられるサービス」(40.6%)、「家族の協力」(35.4%)、「療養に必要な用具(車いす、ベッドなど)」(27.9%)があげられています。



一方、在宅療養を支える事業者は、どのようなサービスを提供しているのでしょうか。練馬区内の訪問看護ステーションがこれまで実施した、代表的な対応疾患・処置がこちらです。

練馬区訪問看護ステーションにおける対応疾患・処置実績

順位	疾患種別	人数
1	精神疾患	570
2	脳血管等	406
3	筋骨格系疾患	252
4	循環器疾患	239
5	認知症	232
6	がん・腫瘍	220

順位	処置	件数
1	お薬の管理	1015
2	便秘等の排便コントロール	687
3	皮膚疾患の処置	252
4	床ずれの処置	176
5	痰の吸引	148
6	胃ろう等の管理	148

※ 訪問看護ステーション連絡会実績報告（平成26年11月）

在宅療養への需要の高まりによって、技術や医療機器開発が進んでいます。訪問看護ステーションにおいても、精神疾患から、脳卒中、認知症、がんの末期まで、実に幅広い病気や医療処置への対応が可能となっています。また、人工呼吸器の管理や痛みのコントロール等の医療処置も行っています。このように、訪問看護師が様々な状況に対応できることで、多くの区民が安心して在宅療養を実現することができます。

前ページのグラフで示したとおり、練馬区では、自宅で最期まで過ごされた方が、2011年から2年間で1.3倍に増加しています。これからも、自宅で最期まで自分らしく生きることを選ぶ方が増えることが予測されます。

練馬区は、今後の在宅療養へのニーズの高まりに対して、区民の皆さまが安心して在宅療養生活を送れるよう、医療・介護従事者への支援や、在宅療養への理解促進等に取り組んで参ります。